療育キャンプ

肢体不自由児

昭和三十一年七月、西部事業団と福岡県肢体不自由児協会の共催で、「手足の不自由な子らの臨海キャンプ」を同県粕屋郡の志賀島小学校で開いた。この種の行事は九州では初めてで、事業団キャンプのスタートでもあった。翌年の三十二年八月には、臨海キャンプと平行して全国でも珍しい「林間キャンプ」を八幡市の皿倉山で開催した。戦後十年が過ぎたとはいえ、まだ社会は閉鎖的で、障害者の子供を外に出すのを親はためらっていた。

指導にあたったのは県肢体不自由児協会長で、九大医学部教授の天児民和氏や県立粕屋新光園の城戸正明園長はじめ小倉記念病院の専門医、看護婦、県内各大学のＹＭＣＡの学生ら計約四十人。

キャンプは大成功で、海では必死に手足を動かして歓声をあげ、山では歯を食いしばって登山に挑戦した。この姿に城戸園長は「ギブスをはめたり松葉杖をつくのはメガネをかけるのと同じことだ。どうか彼らに残された能力を温かい目で見守って伸ばしてほしい」と語っている。　二つのキャンプのうち、臨海キャンプは会場を福岡県玄海町の県立少年自然の家に移して現在も続けられており、平成十一年で四十四回目を迎えた。一方林間キャンプは、キャンプ場が大分県・九重に移設されたことから昭和四十三年で終わっているが、昭和五十一年度に朝日高原福祉センターで肢体不自由児キャンプを行なっている。

ヨット「メイキャッス号」で海洋旅行中に志賀島を訪れ、子どもたちを抱き上げて激励する俳優・森繁久弥船長（昭和36年7月、志賀島の県青少年海洋訓練所で）

海は広いな大きいな、ハンディを忘れて楽しむ子どもたち（昭和62年7月、福岡県玄海町で）

さあ準備運動だ（昭和62年7月、福岡県玄海町で）

全国でも珍しい林間療育キャンプ。さあ宿題だ
（昭和32年8月、皿倉山の福岡県立青少年野営訓練所で）

うまくお米とげるかな
（昭和41年8月、県立青少年野営訓練所で）

手足の不自由な児童の 海と山の療育キャンプ

手、足の不自由な児童が福岡県内に六千三百余人、その大部分は、早期に適切な整形外科的治療を施すとともに、教育や職業能力を与えれば将来、りっぱな社会人として活動し得ることが立証されています。不治とあきらめ、放置されている児童を救い、あわせて「療育思想」の普及をはかるため、次の通り、海と山の療育キャンプを開設します。

【と　き】七月三十一日から八月四日まで（臨海キャンプ）八月二十日から八月二十四日まで（林間キャンプ）

【ところ】粕屋郡志賀島町小学校（臨海キャンプ）八幡市皿倉、県立皿倉野営訓練所（林間キャンプ）

【参加条件と人員】自力で歩行（補助具使用も可）できる程度の小学校三年生から中学三年生まで在学中の児童（貧、ろうあ児と結核性不自由児は除く）定員六十人。

【指　導】九大医学部天児教授ほか同教室員、県立粕屋新光園長城戸博士、日赤支部病院、済生会福岡病院、小倉記念病院の各医員、県下各大学ＹＭＣＡ、ＹＷＣＡ

【費　用】八百円（宿泊費、食費その他を含む）自宅からキャンプ会場までの往復旅費は別に本人負担とする。

【締　切】七月十日、ただし定員に達すれば以前に締切る。

【申込み】福岡市県庁民生部婦人児童課内、県し（肢）体不自由児協会、小倉市朝日新聞厚生事業団、または授産りの福祉事務所

主　催　福岡県し（肢）体不自由児協会
　　朝日新聞厚生文化事業団

後　援　福岡県、日赤福岡県支部、国際ライオンズクラブ、八幡市、同教育委員会、志賀島町、福岡済生会病院

協　賛　ＮＨＫ福岡、小倉放送局、九州朝日放送、ラジオ九州、県指定契約補装具製作業者

（昭和32年6月24日付社告）